

音楽科学習指導案

日時 平成22年2月3日(水) 3校時
対象 2年(男子2名 女子1名 計3名)
指導者 講師 幸多啓子

- 1 題材 日本の伝統芸能
- 2 指導目標 歌舞伎やその伴奏音楽としての長唄、また三味線音楽の特徴をとらえ、独特な表現や、美しさを味わい、伝統芸能を大切にしようとする態度を育てることができる。
- 3 教材
 - ・文楽と能 鑑賞 義太夫節「義経千本桜」渡海屋の段 二世竹田出雲・三好松洛
・並木千柳(宗輔) 合作
 - ・歌舞伎 鑑賞 長唄「勧進帳」 三世並木五瓶 作/四世杵屋六三郎 作曲
鑑賞 歌舞伎「勧進帳」

4 題材について

(1) 題材設定の理由

平成20年10月に出された新学習指導要領の改善基本方針の中に、我が国や郷土の伝統音楽の指導の一層の充実が盛り込まれた。自分自身なかなか伝統芸能に接する機会が少ないため、近頃、注目されている歌舞伎について学習探求する機会を設定し、生徒達がより我が国の音楽文化に愛着をもつきっかけになればと考えた。音楽をその背景となる文化・歴史と関連付けて鑑賞し、音楽文化の理解につながる学習としたい。

歌舞伎「勧進帳」は、長唄「勧進帳」が歌舞伎の伴奏音楽として発達し、現在も人気の高い演目であることから、歌舞伎の表現様式や特徴を知り、舞台装置や音楽、衣装、化粧、せりふまわし等の特色に触れ、伝統音楽としての位置付けとし、文化的価値を認識させるに良い楽曲である。

また、どんな楽器を使用しているか、どんな音色をしているか、生徒自身で発見したり、考えたりするようにさせ、主体的に鑑賞する能力を高めたい。

(2) 生徒の実態

この学年の生徒は、落ち着いてひとりひとりが学習意欲も高く、またお互いを意識して高め合っている学年である。3人ともバトミントン部に所属し、運動能力も高い。そのためか、実技的音楽活動能力は高く、歌唱・器楽・創作どれも積極的に取り組む姿勢がみられる。

しかし、鑑賞に関しては多様な音楽に対して理解を深めたり、自分なりの見解を示すなどの機会が少ないせいか、幅広く主体的に鑑賞しようとする意識が薄いように感じる。知らない世界を知る喜びを感じさせ、新しい発見と良さや美しさを味わわせ、生涯にわたり音楽文化に親しむ心を持たせることができるように、指導法を工夫していきたい。

5 教材の評価基準

- ・日本の伝統芸能に関心を持ち、歌舞伎の表現の特徴を理解しようとしている。
- ・長唄で使われている楽器の音色や奏法、歌舞伎の伴奏音楽であることが理解できる。
- ・勧進帳の物語の内容をとらえ、歌詞の意味を理解しようとしている。
- ・伝統芸能としての文化的価値を認識し、音楽の美しさや舞踊や演技の深さを味わうことができる。

6 指導計画（3時間）

	ねらい	主な学習活動（教材）	配当
第1次	教材を通し長唄の特徴を把握し、伴奏音楽について形状・音色・演奏法などの知識を広め、特に三味線の多様な表現について興味・関心を持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ・義太夫節「義経千本桜（渡海屋の段）」、長唄「勧進帳」、下座音楽（ナレーション付き）を聴き、三味線音楽のそれぞれの特徴と下座音楽について理解する。 ・長唄が歌舞伎の伴奏音楽であることを理解し、使用される楽器について形状・音色・奏法をまとめ理解する。 	1時間
第2次	歌舞伎の特徴や「勧進帳」のあらすじ、教材部分の歌詞内容を知り、その独特な表現と美意識に目を向け、日本音楽の特徴を味わう。	<ul style="list-style-type: none"> ・歌舞伎「勧進帳」の義経をめぐる登場人物の関係について理解する。 ・物語の内容を理解する。 ・教材部分（これやこの～）の鑑賞をし、古語的歌詞の内容を理解する。 ・歌舞伎の表現の特徴をとらえ、日本の伝統芸能について理解を深める。 	1/2時間（本時）
	・歌舞伎を鑑賞し、日本の伝統芸能について理解を深め、自国の文化を理解し、それを大切にしていこうとする態度を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・二つの歌舞伎「勧進帳」の作品を比べ、舞台の作りの違いや演じ手による違いに気づく。 ・主体的に鑑賞し、作品や日本の伝統芸能に関する自分の考えをまとめる。 	2/2時間

7 本時の学習活動（2/3）

（1）題材 『日本の伝統芸能』：歌舞伎の世界にふれよう。

（2）目標 歌舞伎の特徴や「勧進帳」のあらすじ、教材部分の歌詞内容を知り、その独特な表現と美意識に目を向け、日本音楽の特徴を味わう。

（3）展開

過程	時間	指導内容	主な学習活動	指導助言・評価
導入				

(10)	3	授業の導入	音楽日直の指示で体・顔の体操，呼吸法をする。	授業の始まりの和やかな雰囲気作りをする。
	5	前次の復習	<p>パワーポイントで復習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 長唄と歌舞伎の関係について ・ 長唄の伴奏楽器について ・ 三味線の種類とその音楽について 	<p>前次の学習について理解の確認をする。</p> <p>長唄が歌舞伎の伴奏音楽であることが分かっているか。</p>
	2	本時の目標について	<p>本時の目標について知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>歌舞伎の独特な表現と美意識に目を向け，日本音楽の特徴を味わう。</p> </div>	<p>本時の目標と授業の流れを理解させる。</p> <p>予習プリントの確認をする。</p>
過程	時間	指導内容	主な学習活動	指導助言・ 評価
展 開				

(35)	1 2	教材部分の鑑賞	歌舞伎「勸進帳」の幕開きから義経主従が花道に勢ぞろいした所までを視聴し、長唄の表現が内容に合わせて多様であることに注意して聴く。	三味線や囃子などの、楽器の音色の特徴に気をつけて聴かせる。 長唄の発声や、節回しに気をつけて視聴させる。
	5	源義経と弁慶についての理解	源義経と弁慶の人物像、また、その関係について発表する。	源義経と弁慶についての知識を発表させる。 二人の人物についての理解が深まったか。
	8	歌舞伎「勸進帳」のあらすじの理解	教科書の説明文や写真、パワーポイントで「勸進帳」全体のあらすじを知る。 安宅、関守、番卒、判官、強力、勸進帳など、わからない言葉は、ノートにメモをする。	当時の社会的背景や人間関係（義経と頼朝の関係、義経と弁慶の主従関係）等がある程度補足する必要がある。 社会科の歴史学習も参考にする。 「勸進帳」の物語的内容をとらえる事が出来たか。
	5	「歌舞伎」表現様式や特徴の把握	物語の進行につれて変化する、音楽の特徴について気付いたことを発表する。 教科書や他の資料で「歌舞伎」の表現様式や特徴を知る。 ・江戸時代の庶民によって想像された舞台芸術であること。 ・舞台装置や音楽、衣装、化粧、せりふまわし等の特色。 ・十八番、飛び六方などの言葉について。	興味・関心を持って視聴できているか。 歌舞伎の表現の特徴をとらえることができたか。
	5	教材部分の鑑賞	DVDの映像資料を用いて教材部分を鑑賞する。	教材の特質上、映像資料を活用する。
まとめ (5)	5	学習のまとめ	学習内容や感想をノートに記録する。	初めて歌舞伎の世界に触れ、鑑賞した感想を発表し、興味・関心を深める。 次時の学習について説明する。

(4) 評価 歌舞伎の独特な表現と美意識に目を向け、日本音楽の特徴を味わうことができたか。